

り伊勢にてはちよろともいへり、

〔本朝世事談綺器用二〕猪牙船

明曆のころ、兩國橋、笹屋利兵衛、見付の玉屋勘五兵衛といふもの、これを作る、押送りの長吉といふもの、船を薬研のかたちにより、魚荷を積て押に至てはやし、これを考へて作るもの也、長吉船といふべかりけるを、ちよき舟といへり、近年猪牙の二字を用ゆ、猪牙に類似たるゆへか、

〔和漢船用集六〕

河海江湖獵船

猪牙舟

此舟小して細長者也、俚語に、ちよきく」と云は、早ことをい

へり、舟の早く行姿を云て、直來とも書べし、所名を付て呼、尼崎の——是を鳥貝船と云、浪花の——

是を蜆舟と云、すべて小船早き者、兵庫の——日切舟の類也、勢州にて小船をちよると云、攝州にて、尼崎ちよるともいへり、ちよろくと云も、俗語早きことを云、略中浪華のちよき是に同じ、いづれか前後なることをしらす、

〔洞房語園異本考異下〕

山谷通ひの小舟は、長吉といへるもの作り出せし故に、長吉舟といひたる

を、いつの頃よりか、ちよき舟といひ習はし、文字さへ猪牙と書替たりと、沾涼が江戸砂子にも見へ侍る、左もありしか、又一説に、此ちよき舟を作り出せし元祖は、兵庫屋何某とか云て、むかし今

戸堀のはたに住居せし由、略中

此兵庫家の家、殊に榮へて、今戸橋の北の川端に住居して、舟を作

る事を業とす、當時兵庫屋吉兵衛といふは、始祖より八代目なりと、今是にたよりて聞に、長吉と

いふ者は、たしかならず、もし作り出せし頃、其舟の形漣に動くを見て、猪牙と呼初めしにや知らず、此舟すみやかににはしらんことを工みて、さんちやうの櫓をかけたし、後に御制禁有てやみぬ、

〔嬉遊笑覽器用二〕

ちよき舟の名を按るに、今御船手の用る小舟をちよると云ふ、二挺立は、是に類し

たるものにて、其名もこれを轉じて呼べるにや、チヨロといふも、小き物の疾き義なり、チヨキは